

山下ふ頭再開発検討委員会後に インターネットフォームに寄せられた市民意見等について

1 受付期間

令和6年7月12日から令和6年8月19日まで

2 意見数

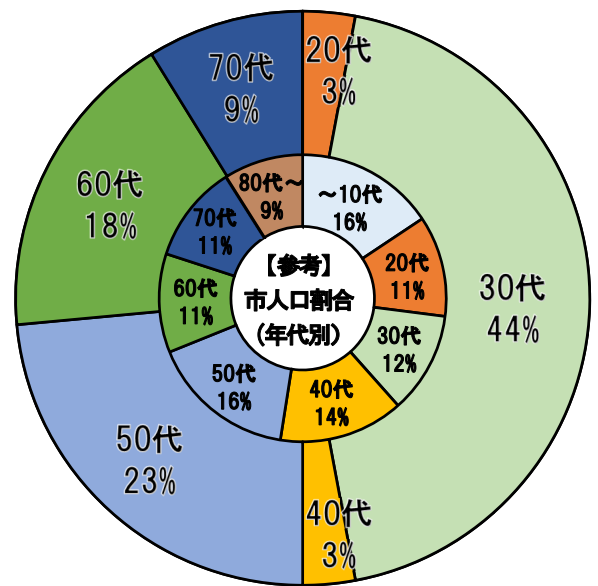
市民意見等は**33名から36件の御意見**をいただきました。

(内訳) 市内30名

市外3名 (30歳代2名、60歳代1名)

※山下ふ頭再開発に関連しない御意見等は、
投稿数から除外しています。

※「横浜市年代別人口 (グラフ内側)」は、
住民基本台帳による令和6年3月時点参照



投稿割合(年代別)

3 御意見の主な内訳

(1) まちづくりの方向性に関する御意見

- ・アクセスの悪さは再開発の大きなネックになるので、交通を意識して山下ふ頭と元町・中華街駅の間にある空間を計画に組み込む視点や大量輸送手段の確保が必要<30歳代、50歳代>
- ・この地区が持つ港というブランドの変遷を正しく理解し、他地域と比べた優位性を導き出した再開発をすすめるべき<30歳代>
- ・脱炭素化社会実現のため「ペロブスカイト太陽電池」や「電気運搬船」など、横浜発の先駆的技術の実装の場とすることで全国に脱炭素化都市をアピールできるようなまちづくりを期待<20歳代>
- ・駅近で巨大スペースがあることが山下ふ頭の価値の1つなので、イベントとのシナジーを創出するため、一部をオープンスペースとして活用できる内容を盛り込めると良い<30歳代>
- ・このような巨大プロジェクトは一市民の想像力では手に余るので、複数のブロックに区切って議論するとよい<30歳代>
- ・経済の話だけでなく、歴史や文化などの視点からの議論も必要<70歳代>

など

(2) 導入機能に関する御意見

- ・横浜港の情景を大切にすべく、山下公園から連続する緑の多い空間<30歳代、50歳代>
- ・緑が多く、港としての機能として「海とのアクセス」を誰もが活用できるインフラ整備<30歳代>
- ・夜遅くまで楽しめるエンタメ・商業・飲食施設<50歳代>
- ・海洋都市横浜として、振興・環境保護推進アピール・観光客誘致のためにアザラシを含めた海洋哺乳類を中心とした水族館<30歳代>
- ・読書を推進するような場所作りとしてのハーバー図書館<40歳代>
- ・4～5万人収容の球技専用スタジアムと8千人収容のスポーツアリーナ<50歳代>

など

(3) その他の御感想等

- ・市内で競争が起こらないように、山下ふ頭ならではの特色のある再開発計画を実施することが、横浜市としての追加の価値につながる<30歳代>
- ・時代の変化に合わせ、用地転換を考慮した柔軟な計画を目指してほしい<30歳代>
- ・平日人口・週末人口のバランス、昼間人口・夜間人口のバランスの調整を考慮できると、より有効な活用につながる<30歳代>
- ・市民からのアイデアに基づき、委員が豊富な見識により補完し、深度化するような議論を期待<50歳代>
- ・実際の着工までの複数年間、山下ふ頭を放置しておくのはもったいないので、年単位の暫定利用を募集して、早期の活性化につなげることも必要<30歳代>
- ・建築の制限を受けそうな建築物の用途について市からファクトや見解が示されていると良い<30歳代>
- ・市民の意見を尊重し、話し合いの場を設けるため、市民参加型のワークショップをもっと開催してほしい<50歳代>
- ・現状のスケジュールでは市民参画は有名無実になる恐れがあるので、委員会に市民を参加させるなど、計画づくりや意思過程に対して、市民への門戸を開くべき<60歳代>
- ・モノを消費させることを核とするのではなく、この場所での経験を人々の思い出にできるような場所にしてほしい<30歳代>

など

※御投稿いただいた文章をわかりやすく簡潔な表現とするため、一部修正を行っています

	居住地	年代	投稿（2000文字まで）
1	磯子区	50歳代	市民意見募集やワークショップで出た横浜市民からのアイデアに基づき、委員の豊富な見識による肉付け・深度化となるような議論をお願いしたい。時間はそう残されていません。
2	磯子区	50歳代	4～5万人収容の球技専用スタジアムと、8千人収容のスポーツアリーナ、氷川丸側の岸壁には山下公園から連続性のある公園、夜遅くまで楽しめるエンタメ・商業・飲食施設があれば、あとはなんでもいいです。
3	中区	50歳代	みなとみらい地区等の開発が進む中、古き良き横浜の雰囲気を感じられる再開発を進めて頂きたい。
4	市外	60歳代	山下埠頭の未来は、横浜の未来だけでなく、日本・世界の未来です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。
5	港北区	60歳代	（1）インターネットでの同時配信をしながら、視聴数が極めて少ないのには、はっきりとした理由がある。この会合が開かれることを市がともに広報していないからである。12日開催が記者発表されたのは、僅か1週間前の4日であり、それも市のホームページ上の記者発表サイトだけである。この広報の仕方、いったいどれほどの市民がこの開催を知るであろうか。せめてトップページに大きく掲出することを何故しないのだろうか。市民を置き去りにしないという言葉と実際の広報、告知のあり方との乖離が著しい。再度、改善を望む。（2）半年ぶりの委員会開催となったが、この6か月の間に何があったのか、委員長交代に絡んで寺島前委員長と市当局との間にどんな行き違いがあったのか、この事について、事務局から全く説明がない。一委員の辞任とは違い、委員長の交代があったことは特別な事である。報道によれば、「自分の依頼されていた役割を終えた。次の段階に進んでいる」と寺島氏は説明しているそうだが、第3回会合からの地域関係団体委員の参加によって、検討委員会が当初の目的とした再開発に向けての「方向性」と「付加価値」を付けるための議論の段階から、「利害調整の場」の段階に移ったということならば、この事態は市当局による専横と言ってもよい差配が齎した不手際であろう。第一回委員会では、北山委員と涌井委員が、地域関係団体委員の早期参加に慎重な意見を述べ、これに寺島委員長も、一案として、「ある段階でまとまった形でもって、仮に10分ずつとかですね、この方向付けについてきちっと意見を言ってもらってという機会を設ける」と応じた上で、「行政の方でもって、今日の意見を踏まえてですね、調整していただければ、だいたい見えてくるんじゃないかなと思いますけど、いかがでしょうか。」と結んでいた。こうした委員会側の意見を蔑ろにした結果の寺島氏辞任ということならば、市側の責任が問われよう。事務局がきちんとした説明をしないのは、市民に向き合う姿勢として誠実さを欠いているとの誹りは免れない。（3）事務局からの説明で、最初の市民意見についての報告は、相も変わらず、只の意見紹介に終わっていて、出された市民意見が検討委員会で議論の俎上に上がることはない。市民意見をどう扱うかについての取り決めがないので、市民側から見れば意見の言いっぱなし、市当局側から見れば意見の聞きっぱなしに終始する仕組みであり、市民参加とは言っても形式上であり、市民が合意形成に関わるような実質的参画とはなっていない。「市民による市民」検討が有名無実に終わらないような抜本的な改善を今後の運営に求めたい。
6	港北区	60歳代	（1）事務局からの説明でファクトシートとして提出された開発事例に、これまで全く触れられなかった2010（平成11）年3月提言の「都心臨海部・インナーハーバー整備構想」が取り上げられたことは評価したい。読み上げられた5つの基本理念は、横浜に住む市民が主役の都市づくりの指針となるもので、今度の再開発検討に当たっても道標たる価値を聊かも失っていない。（2）高橋委員のプレゼンテーションは、詰まるところ、山下埠頭を「税金を生み出す場所」として「横浜経済の牽引役となる場所」にするように求めるものであった。今後の検討委員会の運営についても、「経済や経営を主幹とする経済学者」や「最前線でリーダーになっている経済人」、さらには「観光を管轄する」国、県、市の職員を委員会メンバーに入れるようにとの要望まで出している。市民の望むことをひたすら経済の発展に限定する所から導き出された意見であり、検討委員会が企図する大所高所からの提言書作りとはかけ離れた一面的な意見と言わざるを得ない。関内・関外地区活性化協議会の会長としての高橋委員の立場からは当たり前の要求なのかも知れないが、このような意見書を提出するのは地域関係団体委員によるエゴ丸出しの主張であり、寺島前委員長が危惧したように、検討委員会が「方向性」と「付加価値」を検討する役目を終えて「利害調整の場」と変容した証左と受け取られてもいたしかたあるまい。地域関係団体委員が今後もこのようなプレゼンテーションを繰り返すならば、委員長交代の問題も併せて、委員会の運営の仕方での市当局の顛倒是非は咎められなくてはいけない。（3）内田委員のプレゼンテーションは、ディズニーランドを範とするテーマパーク構想を語るもので、山下埠頭再開発と関連づける必然性を欠いている。上瀬谷開発で既に事業予定者となっている企業グループ向けにプレゼンテーションをされたら良からうと思う。内田委員の用いた生成AIが横浜の地理的、歴史的、文化的特性を十分に学習していなかったためであろうか、インバウンドの為に横浜の存在理由であるかのような、経済面に偏った皮相的な提案内容であった。第3回会議での北山委員の発言にあった「投資やインバウンドの為に」都市があるわけではなくて、都市には「人が住んでいる」、「住民のプライドのある魅力的な都市」ならば観光客はやってくる、この言葉を改めて噛みしめたい。

7	中区	30歳代	会議中に村木委員が発言していたように時代の変化に合わせた用地転換を考慮した柔軟な計画を目指してほしい以前各団体から提出された提案書ではいずれも1回作ったら終わりでの視点が抜けているものばかりだったと思う
8	中区	30歳代	内田委員の提案は大変楽しいもので興味深かったのですが、山下ふ頭は非常に広いので1テーマだけで使い切れるものではないと思いました。質だけでなく、需要や必要面積など量の視点から議論を深められるといいと思います。また、平日人口・週末人口のバランス、昼間人口・夜間人口のバランスを調整を考慮できると山下埠頭のより有効な活用につながると思いました。
9	中区	30歳代	藤木委員の今回の山下ふ頭活用事例のプレゼンはとても興味深かったです。広い空き地を利用したガンダムファクトリーの設置や岸壁を利用したしらせの接岸イベントなど、駅近でこのようなイベントができる巨大スペースは少なく、山下ふ頭固有の価値の1つであると思いました。再開発計画でも無理に使い切るのではなくあえて空きスペースを残してこういったイベントとのシナジーを創出する内容を盛り込めると良いと思いました。
10	中区	30歳代	坂倉委員の発言にあったように山下ふ頭のアクセスの悪さは再開発の大きなネックになるように思いました。元町・中華街駅から中枢部まで若干距離がある上に山下公園駐車場が根本に鎮座していて視界を遮っているのが心理的な障壁を追加しているように思います。ベイサイドブルー・あかいくつの延伸は当然視野に入れていると思いますが、他にも例えば横浜合同庁舎の跡地を駅前広場にするなど、交通を意識して山下ふ頭と元町・中華街駅の間にある空間を再開発計画に組み込む視点が必要ではないでしょうか。参考事例として、同様に駅から距離のある大さん橋ホールは県民ホールや産貿ホールなどと比べると利用率があまり高くなさそうで、そもそも大さん橋自体が割と閑散としている気がします。
11	中区	30歳代	山下ふ頭は山下町内に所在しますが、地域関係団体委員として山下町自治会など住民代表がないのは良くない気がします
12	中区	30歳代	幸田委員から事業計画検討委員会を傍聴していない事業者は応募できないという提案がありました。しかし、大手事業者はアライバイ程度で温度感で数人の関係者を傍聴させるのは容易であるので簡単に形骸化してあまり意味がないと思います。実際に議論に参加させたり計画をプレゼンさせてレビューしたりといったことをさせてはいかがでしょうか。それによって委員会の進行とともに空気の読めない事業者や信用できない事業者は自然と脱落させることができると思います。
13	中区	30歳代	アトキンソン委員の意見にあったように市内で奪い合いにならないようにしなければならないというのはとても重要な視点だと思いました。以前の事業者による再開発提案でも横浜駅周辺・みなとみらい・新港地区と重複の大きい計画が多く提案されていましたが、それらは市内でのパイの奪い合いになると思います。山下ふ頭ならではの他エリアと差別化要素のある再開発計画を実施することが横浜市としての追加の価値につながると思います。
14	中区	30歳代	第4回検討委員会がほぼプレゼンだけで終わってしまったのは非常に残念に思います。プレゼンだけであれば最悪録画の事前共有でも可能はずです。高給取りの方を多数集めて時間を取っているからには対面での議論時間を十分確保していただきたく思いました。
15	都筑区	30歳代	山下ふ頭にはアザラシを含めた海洋哺乳類を中心とした水族館、タマちゃんマリランドを設置してください。山下ふ頭は横浜市の海に面しています。海洋都市横浜を振興していくとともに、環境保護の推進アピールや観光客を誘致するために水族館があるとよりよいと思います。横浜市には2002年にアゴヒゲアザラシのタマちゃんがきて、帷子川護岸等に住み着き、流行語大賞を受賞し、横浜市から特別住民票の交付をうけるなど大変話題になりました。横浜市や海に親しみを持ってもらうためにも横浜市に住んでいたタマちゃんの名を冠し、特別住民票を交付等横浜市とタマちゃんの結びつきを顕彰する水族館を作れば、他の施設との相乗効果により、山下ふ頭の発展により効果的です。山下ふ頭は横浜市発展の切り札になります。他市との差別化や脱炭素、海洋都市や自然環境保護、生き物との共生を図るため、かつて横浜市が特別住民票を交付したアザラシを活かした山下ふ頭開発、街づくりを行ってください。港湾と自然が親しむ都市になれると思います。
16	中区	30歳代	以前の事業者提案では色々夢のある提案がなされていたと思いますが、これまでの委員会では建築の内容の制限に関してファクトの説明がなかったように思います。山下ふ頭は横浜の湾内に直接突き出た埋立地であるため高潮・津波・液状化などの災害リスクがあります。また山下公園通り、港の見える丘公園の崖下など周辺地域一体には景観を遮らないよう高さ制限がかかっています。それらを踏まえて戸建て住宅地やタワマンのような超高層建築など制限を受けそうな用途について市から見解が示されていると良いと思います。

17	中区	30歳代	山下ふ頭のスケール感を理解されていない委員が散見されるように思いました。赤レンガ倉庫パーク一帯が5.5haやパシフィコ横浜・パシフィコ横浜ノースが7haに対し、山下ふ頭は47haもあり非常に広いです。思いつきの1テーマだけで使い切れるような広さではないと思います。このような巨大プロジェクトはやはり1小市民の想像力では手に余るので、7~10の仮のブロックを区切って利用したいブロックとともに議論してはどうでしょうか？例：ガンダムファクトリー(第5ブロック), 新コンベンションホール(第1,第3,第7ブロック) など
18	中区	30歳代	<p>答申が年末まで目標だそうですね。</p> <p>そうするとそこから大方針を決定して事業者提案のコンペをしてと考えると着工は最速でも3年後くらいになりそうだと思います。</p> <p>その間山下ふ頭を放置することになり非常にもったいないと思います。</p> <p>ガンダムファクトリーのような1から3年程度の暫定利用を募集して早期の活性化につなげるということも必要だと思います。</p> <p>意見募集や市民会議などでやってる雰囲気っを演出するだけでなく、山下ふ頭の有効活用には時間という要素も含まれることを肝に銘じて着実な前進を求めます。</p>
19	磯子区	60歳代	<p>デービット・アトキンソン氏を委員から外してください。彼は日大准教授による戦国時代の日本における黒人奴隷説という、当時の一次資料では何の裏付けもない歴史捏造に同調し、ましてや嘘である根拠を示せとSNSに投稿した。</p> <p>言論の自由はあれども根拠のない歴史捏造に加担するような人を委員に据えて良いのか。</p> <p>日本の横浜市としての姿勢が問われる。</p>
20	中区	40歳代	<p>日本で1番素敵でハーバー図書館を作ってください 僕は海外歴が長いのですが、どの街にも必ず中心地には中央図書館があり人の集まる場所になっています。大好きな横浜市民にはテレビやネットを見る時間を本を読む事を推進するような場所作りをしていただくとことを所望します。</p> <p>https://youtube.com/shorts/CdHq9gAjnDo?si=jh4A7TiR6vRyJ3Po 人は読んだ本の積み上げた高さから世界を見えるのだといいます。どうか横浜市民の為に、世界に誇れる素敵なハーバー図書館を盛り込んでくださることを期待します。</p>
21	港北区	60歳代	<p>幸田委員のプレゼンテーションは、専門の住民自治に関する高い見識に基づくもので、寺島前委員長が再三強調し、平尾新委員長も「市民による市民のための市民の再利用」との言葉で継承するところとなった「市民参画」の議論を前に進めるものとなった。幸田委員は、IR誘致の際の市民を置き去りにした進め方への反省の上にたち、「事業計画の策定手続きは市民参加の手続きとすべき」と指摘した。この検討委員会からの答申が出された後に、「事業計画検討委員会」を新たに設置し、そこには市民の代表委員が過半数を占めるようにするとの画期的な提案も出された。これまで市民の意見を取り入れるための市民意見募集とは言うものの、市民はただ意見を言うだけで実質的合意形成の場には参加できていない。市が予定している今後のスケジュールでは、答申後に事業計画案を作成し、市民意見募集及び意見交換会を経て、事業計画の策定、事業者募集となっているが、これまでのやり方を踏襲する限り、市民参画は有名無実になる恐れが濃厚である。しかしながら、既に市民側では、学識経験者の向こうを張って、具体的な事業計画案も公表している市民団体も出てきている。この横浜の地に生きてきた、そして生きていこうとする市民は、今回の会議からでも参加して、横浜の地理、歴史、文化に根差した質の高いプレゼンテーションを行うことができる。地域的特性に関する学習が十分でない生成AIによるプレゼンテーションに勝るとも劣らない、文化の香り馥郁たる、血の通った、味わい深い企画が披露されるであろう。計画づくりや決定過程に、今こそ、市民に大きく門戸を開くべき時である。市当局の英断に期待したい。また、幸田委員が事務局に対して次回までの調査回答を要望していた、社会保障費と物件費の一般財源ベースでの負担割合に関するファクトの件は極めて重要である。なぜならば、よく言われていて、とかく税収を上げることばかり市民の目が行くように仕向けられている財政上の理由が本当かどうか、確かめる必要があるからである。今後、社会の高齢化に伴って社会保障費が増大するので、市民サービスを縮減しないのなら、税収を上げなくてはいけないし、税収を上げるには、インバウンドを主とした観光事業に狙いをつけて経済発展をするほかはない、との通説がまかり通っているきらいがあるが、この説明にはどこか胡散臭いものがある。幸田委員の要望通りに事務局がきちんとしたファクトシートを提示して、市の財政に関する正しい認識を持てるようにして欲しい。市税が市民の為に正しく使われているようになっているのか、確かな検証が必要である。</p>

22	中区	30歳代	<p>・IRも含めて、大規模商業施設をはじめとした所謂、「箱物」を核とした再開発にはしてほしくない。どんなに画期的なコンセプトで施設を建てたとしても、一見して見栄えはいいが、結局は他地域と似たようなデベロッパー等の事業者だけが利するような再開発になる。 ・山下埠頭周辺地区（山下公園、元町、中華街）はみなとみらい地区とは異なる都市としてブランドを既に持っており、そのブランドに引きつけられて週末に限らず多くの人々が余暇を過ごしている。 ・再開発にあたってはこの地区がなぜこのようなブランドを持つことができたのかといった変遷を正しく理解し、特に山下埠頭が辿った土地の履歴から他地域と比べた優位性を導きだした上で、再開発に取り組んでほしい。 ・個人的に考えるこの地区が持つブランドは港という土地として、多くの人種を受け入れた寛容性こそが最大のブランドだと思う（山手洋館、ホテルニューグランドといった西洋文化、そして中華街のアジア文化） ・山下埠頭は港としての機能を有しているなのでその機能、すなわち「海へのアクセス」は損なわないでほしい。（船舶の利用、または海上施設の玄関口）そして何より横浜港の海と山下公園の緑との連続性を高層または大規模建築物によって遮断するような開発は避けて欲しい。 ・緑が多く、世界へ広がる海へ誰もがアクセスできる、インフラの整備されたオープンスペースとしての活用を望む。 ・モノを消費させることを核とするのではなく、この場所で体感した経験を人々の人生の思い出にできるような場所にしてほしい。その些細かもしれない思い出が次の横浜への歴史になるはずだと確信します。 ・したがって横浜港の情景を大切にしてほしい。</p>
23	磯子区	50歳代	<p>7/12の委員会の映像を拝見して。坂倉委員からの交通アクセスに関するご意見について、大量輸送手段の確保は必須です。ロープウェイなどはそれを補完する手段にしかかなりえないからです。元町・中華街駅からMM線を延伸する構想を検討した過去があるのは初耳でしたが興味深いものでした。道路とともに、真剣に早く検討しなければならない事案です。涌井委員からの最後のご意見は、この再開発を検討するにあたっての重要な柱3点が詰め込まれていました。この意見はとても重要です。一番最初にご発言していただけると、もっと良かったかなと。あと、幸田委員からの事業計画案策定の体制と手続きについては理解できましたが、多様な意見をもつ「市民」をいかにバランスよく公正に選ぶことができるかが課題だと思います。坂倉委員と涌井委員、幸田委員からのご意見を聞いただけでも良かったと思いましたが、これらを真剣に考えてほしいです。</p>
24	市外	30歳代	<p>検討委員会の委員の年齢層が高齢者に偏っている。検討委員会の委員の性別が男性に偏っている。将来について議論をするのだから、委員の過半数は若年層にすべきである。委員の半数は女性にすべきである。</p>
25	市外	30歳代	<p>山下ふ頭の開発と、横浜港の内港地区の有効活用を有機的に関連させるべきである。内港地区の有効活用のために、高さ制限があり邪魔なベイブリッジを廃止・解体すべきである。廃止・解体されるベイブリッジの代替道路として、山下ふ頭から大黒ふ頭に通じる海底トンネル道路を建設すべきである。ベイブリッジの高さ制限がなくなることで、より多くの船舶を内港地区へ呼び込むことができ、横浜港の一体的活性化を実現することができる。</p>
26	戸塚区	20歳代	<p>横浜市は脱炭素化社会の実現に積極的に取り組んでいます。山下ふ頭では、〇〇大学の〇〇教授が発明した「ペロブスカイト太陽電池」や民間企業と連携協定を結んでいる「電気運搬船」など、横浜初の先駆的な技術の実装の場とすることで全国に脱炭素化都市をアピールできるようなまちづくりを期待しています。</p>
27	中区	70歳代	<p>利害関係人が委員会のメンバーにいるのは、純粋な再開発検討に弊害になると思う。 知事は委員委嘱の必要性を勘案して、委員会メンバーの見直しを検討してもらいたい。</p>
28	金沢区	50歳代	<p>検討委員会の委員に事業者提案をしている法人の代表がいますが、何故でしょう。本当に他にいなかったのですか？何か忖度していませんか？ 利害関係企業の代表を地域関係団体委員に選出し続けるなら、本事業に当該企業が関わらない、落札させないことを、次の委員会の中で宣言してください。</p> <p>また、第3回の委員会から、何を検討しているのか内容がよく分からなくなってきましたか？ 経団連の話とか。ご先祖とか、米中の話とか。 このまま、地元の声の大きい人に寄り添った再開発になっていくのでしょうかね。 横浜市には失望です。</p>

29	瀬谷区	70歳代	<p>山下ふ頭再開発に関する私見（3-1） 70歳代 男性 瀬谷区在住</p> <p>再開発検討委員会の4回目の議論をYouTubeで拝見しました。</p> <p>1）ある委員から、検討委員会に経済人や経済学者を多く招きたいと提案がありましたが、経済人が多いと金儲けの話ばかりになり、成果物（＝山下埠頭再開発）が貧相なものになります。山下埠頭再開発検討委員会は横浜の玄関をどう設計するかの議論ですから、金儲けだけでなく、歴史や文化などの視点からの議論も必要と思います。具体的には、建築界のノーベル賞と呼ばれるプリッカー賞を受賞された横浜市在住の〇〇さんは、高い見識をお持ちの建築家ですから、〇〇さんにも再開発検討委員会のメンバーに加わっていただいて、山下埠頭再開発に関するご提案をいただきたいと思います。</p> <p>（3-2に続く）</p>
30	瀬谷区	70歳代	<p>山下ふ頭再開発に関する私見（3） 70歳代 男性 瀬谷区在住</p> <p>再開発検討委員会の4回目の議論をYouTubeで拝見しました。</p> <p>1）ある委員から、検討委員会に経済人や経済学者を多く招きたいと提案がありましたが、経済人が多いと金儲けの話ばかりになり、成果物（＝山下埠頭再開発）が貧相なものになります。山下埠頭再開発検討委員会は横浜の玄関をどう設計するかの議論ですから、金儲けだけでなく、歴史や文化などの視点からの議論も必要と思います。具体的には、建築界のノーベル賞と呼ばれるプリッカー賞を受賞された横浜市在住の〇〇さんは、高い見識をお持ちの建築家ですから、〇〇さんにも再開発検討委員会のメンバーに加わっていただいて、山下埠頭再開発に関するご提案をいただきたいと思います。</p> <p>2）再開発検討委員会の議論では毎回、横浜市 of 税収減が話題になります。皆さんご承知のように、横浜市 of 市民税は、ふるさと納税制度のため300億円以上の減収で、この影響で市バスの減便などの弊害が出ており、特に市バスへの依存度が高い高齢者が困っています。ふるさと納税による減収問題を放置しておきながら、山下埠頭の再開発で税収を増やす方策を考えるというのは行政者の判断能力が疑われてもやむを得ません。横浜市は他都市との返礼品競争で減収分を取り返そうなどと愚かしいことはやめ、まず政府に対して、毅然としてこの有害無益な制度を中止するよう提唱すべきです。</p> <p>3）幸田委員から、IR誘致問題の反省の上立って、事業計画策定の決定手続きを確立すべきとの提言がありました。私は幸田委員の提案の中でも、市民を加えた「事業計画検討委員会」にて事業計画を進めようとの提案に賛成で、強く支持します。事業計画の策定に市民を加えるのは運営上難しい面もあるでしょうが、是非実現してもらいたいと思います。</p> <p>今回の検討委員会では山下埠頭に何をやるかを定めることが大きなテーマですが、これを最終目標とせず、山下埠頭再開発検討委員会の議論を通じて、横浜市 of 今後の他の再開発計画策定の模範となるようなプロセスが確立されることを期待します。</p> <p>（以上）</p>
31	港南区	50歳代	<p>山下ふ頭の再開発計画に当たっては、市民の意見を最大限尊重した話し合いの場を継続して設けるべきです。港湾局が当初行ったような、市民参加型ワークショップをもっともっと行ってほしいです。市幹部と企業が計画を押し進めていけば、カジノ誘致計画の二の舞になりかねません。</p>
32	港北区	50歳代	<p>市民の意見は、自分たちにとって都合のいいものしか聞きません。</p> <p>具体的には、山下ふ頭までの交通アクセスが悪いから、新たな交通を敷いたほうがいい。</p> <p>横浜市は財政が厳しく、山下ふ頭になにができるかわからないのに、そのようなことでもいいのでしょうか？</p>
33	港北区	50歳代	<p>カジノ誘致の失敗を踏まえて、山下ふ頭の再開発はゼロベースで、市民の意見を聞いては、やはり建前だと思いません。</p> <p>お盤明けに開催、市民の意見は8時半まで。市民の意見は、なるべく聞きたくないとしか思えません。</p>

			<p>「第4回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 1</p> <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 ○○会会員 ○○ (60代男 鶴見区在住)</p> <p>標記、「第4回山下ふ頭再開発検討委員会」(以下、「検討委」という)において委員の発言等について、当方の意見・要望・疑問を述べさせていただきます。</p> <p>「検討委」及び検討委事務局におかれましては、下記に掲げました意見・要望・疑問等、及びその他市民が提出する意見・要望等を誠実に受入れ、第5回以降の検討委の議論に反映されるよう期待いたします。</p> <p>「寺島委員長」辞任 この横浜・山下ふ頭の将来の姿を方向づけの役割を担う重要な検討委。その「顔」が突然退任=寺島委員長辞任について、会議冒頭、市・事務局は、「本人からの申出で」と言うのみ。前回(第3回 寺島委員長欠席)検討委で委員長代理を務めた石渡委員は、「寺島委員が辞任されました」と事実関係を報告するだけ。そして、新委員長に選出された平尾委員も「諸般の事情から」とあっけない説明して次のテーマに。と、だれも真相を語っていない。市側は本検討委初回における事務局説明で、「透明性の高い運営を行う」と宣言している、にもかかわらずである。当方が、新聞報道等を総合した理由を列挙すれば、</p> <p>1 「自分の役割は終わった」、「議論が次の段階に進んだ」「方針が変わった」。</p> <p>2 ①市側と考え方の違い、「学識者による検討委と聞いて議論のまとめ役を引受けた」、「世界の港湾の動向を踏まえた街づくりのあり方について議論」。</p> <p>2 ②市側と考え方の違い。「地域の声を取入れることは否定していないが、利害調整の場になることを懸念」「地元関係団体を交えた議論が始まった。利害調整組織になると懸念」</p> <p>3 「多忙」と、これらすべてが「辞任の理由」となるのであろう。</p> <p>まず前回(第3回 寺島委員長欠席)から今回の開催まで、6ヵ月も経過していることの異常さを指摘する。そのうえの委員長の辞任である。</p> <p>寺島氏自身が、自分の口から・自分の考えを、横浜市民に向かって経過説明すべきであろう。これこそ、同氏が常に言っている「説明責任」である。まさか「同責任はない」と逃げることはないと思うが、説明責任を果たさないのであれば、氏は「政治家以上の政治家」に成下がったかと扱われるべきである。少なくとも横浜市は以後、「寺島氏を市に関係する審議会・委員会等に招聘は、すべきではない」と申述べておく。</p> <p>次に、「辞任」の理由である。</p> <p>3 「多忙」。各委員がこれを理由に挙げたら、当検討委だけでなく、世界中で開催・実施される(あらゆる)会議は成立たない。寺島氏だけが特別なわけではない。しかるに、これは検討の要なし、却下。</p> <p>2 ②市側と考え方の違い。「地域の声を取入れることは否定していないが、利害調整の場になることを懸念」「地元関係団体を交えた議論が始まった。利害調整組織になると懸念」である。地域関係団体の本検討委への参加に懸念を表明し、検討委の本旨から外れ「利害調整の場」に墮すことにクギを刺したしたのは、北山委員であり、涌井委員(同氏はちょっと方向性が違うようにも)である。決して寺島氏ではない。</p> <p>事実、寺島氏は、市民参画が必要「意見を述べるだけじゃない、山下ふ頭を支えていく、市民がどういう責任を担いながら参画していくかが重要」と。また第1回検討委の最後には「地域関係団体からまったく意見を聞かないというのもまた、おかしな話だ」と当検討委への(「委員」での参画が否かはともかく、一般市民ではない!)が)地域関係団体の本検討委への参加・意見表明を認めている。</p> <p>寺島氏は、第2回検討委後、記者会見で、市民が参画できるプランじゃないと納得できないと意見が出るとも語っている。なにが市との相違なのか、当方には理解ができない。</p> <p>2 ①市側と考え方の違い。寺島氏は、「学識者による検討委と聞いて議論のまとめ役を引受けた」、「世界の港湾の動向を踏まえた街づくりのあり方について議論」と。当方は、これだけの報道で詳細まで掴むことはできないが、初回検討委において寺島氏が、市・事務局に、横浜港に関する「ファクトシート」の提出を求めた。その時点から当方は疑問を抱いた。もしかして(そうでないことを望むが)氏は、今後、横浜港の港湾機能(輸出/輸入)を、どう取戻すか(再強化)が、氏の頭のどこかにあるのではないかと。夢よもう一度ではないが、横浜港の輸出/入貨物取扱量の減少、ヨコハマ・パッシング=日本海航路の活況、日本の埋没等に危惧を表明していた。それもその表れと言うこともできる。</p>
--	--	--	--

		<p>35 鶴見区</p> <p>60歳代</p>	<p>「第4回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 2</p> <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 ○○会会員 ○○ (60代男 鶴見区在住)</p> <p>しかし、北山委員が言うように、今後の横浜港=少なくともインナーハーバーの生き方は、「都市機能」の(必ずしも、商業主義には陥らない)発展・充実・強化。</p> <p>また、幸田委員が言う、IR=カジノの前捌きとしての港湾開発(「都市機能」)ではなく、保税地区の活用等「港湾機能」を残しつつ「都市機能」強化への変遷、ではないのか。少なくとも、当方はそう捉え・考える。</p> <p>1「自分の役割は終わった」、「議論が次の段階に進んだ」「方針が変わった」についてである。「終わった」か否かは当人の感覚次第なので、第三者の私たちの入込む余地はない。が、「次の段階に進んだ」かどうかは、意見が分かれるのではないか。何をもち「次の段階」なのか、第3回から寺島氏自らが再三言っている「市民参画」が始まった、と言うのであれば、答えは、「否」である。当方ら、市民運動を行っている者からすれば、「地域関係団体」は「市民」であって市民ではない。また、「方針が変わった」かは、当該検討委から外されている当方らには皆目見当がつかない。ここからも、寺島氏は横浜市民に対し、辞任を決意しそこまで至った理由・経過をしっかりと説明すべきである。</p> <p>しかしながら、寺島氏は、(第2回)委員会後の記者会見で「市民が参画できるプランじゃないと納得できないと意見が出る」など、市民参画をたびたび口にしていた。当方ら市民は、これを期待していた。堅牢・頑強な市当局の厚い壁を打破れるのは、寺島氏の突破力だけだからである。</p> <p>また寺島案に近い意見として、幸田委員の発言がある。この意見をいかに発展させるか</p> <p>次に、内田委員のプレゼンについて、 本件「山下ふ頭再開発」を取組むにあたって市当局は、「都心臨海部再生マスタープラン」を「既往計画」「上位概念」にまつり上げている問題がある。この「マスタープラン」は、横浜市においてカジノに言及した最初の「公式文書」だと言われている。このような、カジノを大前提とした「計画」がいまだに横浜市の街づくりの基礎に居座っていることが最大の誤りであり、事業進行の障害・矛盾の根源である。しかし、内田氏は本「プラン」を相も変わらず金科玉条のように扱っている。</p> <p>本検討委の目的は、山下ふ頭の再開発にあたっての「方向性」と「導入機能」であるが、内田氏のプレゼンは、個別・具体論にまで踏込んでいる。内田氏にはこの意味が理解できているのだろうか。しかも持ち時間を2倍も使って延々と駄作の披歴であったのだからあきれ</p> <p>内田氏は、北山委員が言った「ネガティブ・マスタープラン。つくりたくない計画という考え方もある」を肝に銘ずべきだ。</p> <p>「eスポーツの館」、「世界選手権の会場としての『山下ふ頭』で」などと言う話があった。これはパクリだ。この発想は、発言者である内田氏が考案したアイデアでもなく、ビッグデータとアルゴリズムとの融合に基づき(内田氏が借用した)AIが産出した「提案」「解決案」でもない。「(eスポーツの)世界チャンピオン決勝戦を、みなとみらいのホールでやりたい」と言ったのは、○○氏だ。「を、みなとみらいで」を「を、山下ふ頭で」に置き換えただけで、「自作」の装っているのだから悪質だ。</p>
--	--	---------------------------	---

	36 鶴見区	60歳代	<p>「第4回山下ふ頭再開発検討委員会」に対する意見 3</p> <p>港湾局 山下ふ頭再開発調整室長 殿 ○○会会員 ○○ (60代男 鶴見区在住)</p> <p>本検討委は、時間ありきではない、はず。しかし、事務局は結論を急ぎ、「年内答申」をめざしている。委員会ではまだ議論すべき課題・テーマが残っている。その一つは、市民から出された意見に対する議論である。事務局は、委員会の開催終了ごとに市民意見を募っている。これはこれで歓迎なのだが、言いはなし、聞きばなしに終わっている。市民参画の一環として検討委の中で活用すべきである。</p> <p>蛇足、当方は、前回(第3回)の意見表明で、(地域関係団体間での)「親子喧嘩など当方は見たくも聞きたくもないし、関わりたくもない。レフェリー役の検討委員長や、同委員らを選出した事務局(港湾局)が、かかる見苦しいシーンが二度と再現されることのないよう調整し、会議をコントロールするよう要望する」と書いた。しかし、選出基準に問題なし、とはしないが、市の重要事業に関わる検討委員に選出された重みを考慮すれば、ケツワリはないだろう。検討委員長や事務局(港湾局)は開催までの間、何をしていたのか、問い質したい。一方、ケツワリを決め込んだ「委員」は、自らの属する検討委を軽く・甘くみているのではないのか、猛省を求める。当方は別のところでも書いたが(もちろん、当人には届いていないだろうが)、当該ケツワリ委員の本検討委「委員」選任に際し、利益相反と批判されることのないよう注意を、と呼掛けた。届かぬものをいくら叫んでも、しょせん負け犬の遠吠え。</p> <p>時間の関係上、これまで、とする。</p>
--	--------	------	---